（様式）

助成事業完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報告日付：2018年1月13日
事業ID：2016402670
事業名：漁師を通じて海と子どもをつなぐ
漁業体験プログラム
団体名：（一社）フィッシャーマン・ジャパン
代表者名：阿部　勝太　印
TEL：0225−98−7071
事業完了日：2017年12月30日

事業費総額	6,480,000円	（収支計算書に記載する決算額）
自己負担額	1,300,000円	
助成金額	5,180,000円	（千円未満は切り捨て）
返還見込み額	1,230,000円	（収支計算書に記載する助成金返還見込額）

事業内容：
子どもが「魚は切り身で泳いでいる」と本当に思っている時代。海に囲まれた島国日本で、沿岸部の子どもたちでさえ海や漁師のことをTVでしか見たことがない状況が増えてきている。まずは沿岸部の子どもたち、そしてその親世代にも漁師を通じた海の体験をしてもらうことで、海が食べ物だけでなく、自然体験もでき、さまざまな「幸」をもたらしてくれるものだということを再認識してもらった。
各地で行政や小学校と協働で「海と漁師を知る体験イベント」を実施し、定期的な教育プログラムになりえるか今後協議をしていく。イベントでは、漁師が食を提供し交流することで、漁師こだわりの食べ方、漁師の日常、地球温暖化やそれに伴う海洋環境の変化などを漁師や関係するシェフの口から語ってもらい、参加者に、漁師や海を身近な存在として感じつつ、海の課題についても知ってもらう機会となった。
当初の狙い通り、北海道から福岡までの様々な地域の漁師を取り上げることで、日本の漁師の多様性や奥深さも感じてもらった。各地で行ったイベントの成果を、地域や自然、漁業から遠くなってしまっている東京の親子世代にも知ってもらうためのレストランイベントも実施。

・福岡県北九州市「藍島魅力発見ツアー」
- 開催日：2017年9月9日
- 場所：北九州市藍島
- 北九州市、漁協組合員（漁師）、ヤフー株式会社と連携して親子で参加できるツアーを実施。大きな都市である小倉から渡船に乗って離島にわたり、漁師と漁船でスナメリウォッチングや海のドライブをし、陸に戻って漁師から漁業についての話を聞きながら漁師たちがとった

海産物を味わう野外BBQを行った。海産物は漁師がその日のために漁でとってきたものを、女性部のみなさんに調理してもらった。
食後は砂浜に漂着するゴミについて学び、実際にゴミ拾いを行った。特に子供が率先してゴミを拾い、中国や韓国から流れてきたゴミと、国内のゴミの分別などで海の課題について考える機会となった。
（詳細はイベントレポートに記載）

・宮城県石巻市「ノッテ ミテ サバイテ タベル 1日漁師体験」
- 開催日：2017年9月24日
- 場所：石巻市牡鹿半島
- 石巻市が運営するこどもセンターらいつと、ヤフー石巻ベースとフィッシャーマン・ジャパンの共同開催で小学生のみ参加可能な漁業体験＆さかなさばき体験＆1日カメラマン体験を実施。子供に使い捨てカメラを渡し、その日の体験を写真におさめてもらった。その後、子供達が撮った写真を引き伸ばし、冬休みにこどもセンターで写真展を実施。
宮城県漁協石巻地区支所の協力で、漁船に乗り小型定置網の体験。実際に魚をとり、それを陸に持ち帰るとそこに魚屋が待機していて、魚を売った（卸した）。
そこからさらに漁師の奥さんやお母さんが運営する食堂「はまさいさい」に移動し、魚（アジ）をさばく体験。自分でさばいた魚を漁師たちと一緒に炭火で焼き、その他郷土料理とともに味わった。
（詳細はイベントレポートに記載）

・北海道利尻町「利尻昆布体験授業」
- 開催日：2017年12月10日
- 場所：利尻町島の駅
- 離島経済新聞社の協力で、利尻町教育委員会と昆布の授業を実施。これまでも漁協や町が漁業についての授業を行っていたが、実際に子供に昆布を加工（切る）作業を体験してもらい、6次産業について学ぶきっかけづくりにつなげた。
講師は急遽移住漁師第1号の漁師が対応してくれたが、外から島の漁師に憧れて移住してきた漁師の言葉は地元の漁師と違う視点で子供達に興味関心を与える内容となった。
子供達が加工した昆布は、東京のレストランイベントで実際に調理に使用。
（詳細はイベントレポートに記載）

・東京「FISHERMAN JAPAN RESTAURANT 2017」
- 開催日：2017年12月15日
- 場所：東京 永田町駅近く tiny peace kitchen
- 各地で行った体験の展示とともに、漁業の課題や取り組んでいるプロジェクト、海産物などについてプレゼンテーションしながら、フィッシャーマン・ジャパンの関係シェフがそれぞれストーリーに沿った料理を考案。各地の酒とともに振る舞い、漁業体験や漁師について知る・考えるレストランイベントになった。
（詳細はイベントレポートに記載）

1.事業目標の達成状況：
【申請時の目標】
①利尻町、石巻市、北九州市で子ども20人～30人程度を中心とした漁業体験プログラムを1回ずつ実施。

②永田町のコワーキングスペースLODGEにて、首都圏住民100人規模の漁師とふれあい、海の体験プログラム・ツアーを提案するイベントを開催（2月、全地域が集合）

【目標の達成状況】

・利尻町イベント：8名
・石巻市イベント：11名
・北九州市イベント：26名

・東京レストランイベント：36名

2.事業実施によって得られた成果：
当初はまだ各地の行政や漁師との関係性ができていなかったため、イベント内容や目標人数も同じようなものに設定していたが、実際に各地に行って行政や漁師のニーズを聞き、それぞれの地域の特徴を見て感じたところ、同じことをやるべきではないと判断し、ターゲットを含めて各地で関係者と協議しながら進めていった。

成果としては、
- 参加者の満足度はどれもかなり高く、「今後も同様な企画に参加したい」という声が多かったこと
- 協力者の満足度がそれ以上に高く、行政、漁協、漁師が「継続したい」という思いになってくれたこと
- 体験を通じて、海や漁業を伝えるための新しいチームができたこと
- 教育としてはもちろん、参加費を払ってでもやりたい（参加者）、参加費をとってでもやるべき（開催側）と、事業にもなる可能性が見えたこと
- 漁業以外のことを手間をかけてもやる意義を漁師が感じてくれたこと

などがあげられる。

子供だけの参加にした石巻、利尻では、その後の子供から親への報告で「子供達が目を輝かせながらその日の体験を語ってくれた」と本企画に大きく賛同してくれた親が多く、その状況を見て行政や漁協も教育プログラムとしての意義を感じてくれていた。
親子参加OKの北九州では、メディアがとりあげてくれたこともあり、開催後に問い合わせが殺到。「漁業体験ができてしかも高級な海産物を新鮮な状態で食べられるのであれば、ぜひ今後もツアーとして開催してほしい」という連絡が多かったとのことで、行政の別の課が観光としての藍島、漁師、について調査・協議を開始した。

観光業や地域PRにもつながるコンテンツになりうるということを、一緒に開催した関係者が感じてくれたことは大きい。

また、漁師が石巻のフィッシャーマン・ジャパンのように、本業以外の活動を行っていくことで、地域や漁業の課題を解決する役にまわれることを感じてくれたことも大きな意義があると言える。
各地では漁師団体設立の動きにつながり、石巻への視察も予定されている。
こどもの漁業体験をきっかけに、地域間交流が生まれ、教育や産業発展、地域活性の流れを作ることができるかもしれない。

3.成功したこととその要因

最終的には各地の行政関係者を巻き込むことができたため、それぞれ行政協力というオフィシャルなイメージで実施することができ、参加者や地元メディアへのPR効果が高まった。
特に北九州市では、テレビ局が長尺で紹介してくれたために反響が大きく、新たな観光への可能性が広がった。
開催側の満足度が高かったため、行政、漁協、漁師などそれぞれが自分たちの役割分担を理解し、次回以降のイメージをつかむことができたのも成功のひとつと言える。その際に間をとりもつ民間企業・団体の存在が必要で、利尻では離島経済新聞社、石巻はフィッシャーマン・ジャパン、北九州はヤフー北九州センターが今回は大きな役割を果たした。

4.失敗したこととその要因

各地との関係構築に時間がかかり、さらに2017年秋冬は各地で天候不良が多かったこともあってイベントの日程がなかなか決まらなかった。
強力な助っ人の登場によりなんとか年度内に3箇所実施できたものの、今後はこの事例をきちんと理解し、実行にうつすことができる地域の選定にも時間をかける必要がある。
また、開催前や開催後のリサーチを行うことができなかったため、定量的に今回の事業の成功を語ることができていない点は課題となった。

事業成果物：

利尻町イベント動画： https://youtu.be/A5xOX9FaqO4
石巻市イベント動画： https://youtu.be/TnKf5_8BBpg
北九州市イベント動画： https://youtu.be/PASVb5L-t2g

（様式）

収支計算書

（2017年4月1日から2017年12月31日まで）

収入の部　　（単位：円）

科目	予算額（A）	決算額（B）	受入済額（C）	助成金 未調達額 （D = A−C）	助成金 返還見込額 （E = A−B）
日本財団助成金収入	6,410,000	5,180,000			1,230,000
自己負担	1,610,000	1,300,000		−	−
収入合計	8,020,000	6,480,000			

支出の部　　（単位：円）

科目	予算額（a）	決算額（b）	支出済額（c）	未払額 （d = b−c）
謝礼金	1,620,000	787,520	787,520	0
旅費交通費	2,112,000	861,408	861,408	0
業務委託費	4,120,000	4,042,490	4,042,490	0
消耗品費	120,000	83,228	83,228	0
通信運搬費	50,000	0	0	0
会議費	0	26,768	26,768	0
保険料	0	27,420	27,420	0
人件費	0	609,120	609,120	0
支出合計	8,020,000	6,482,914	6,482,914	0